

東日本大震災復興支援松戸・東北交流プロジェクトニュース

“黄色いハンカチ”

【発行者】

松戸・東北交流プロジェクト(代表:古宮保子)
〒271-0092 松戸市松戸 1834- 5 小川ビル 2階
TEL: 047-710-5519 FAX: 047-710-5546
E-mail: yellowhandkerchief1834@gmail.com

特集

みんなの広場



避難者の「先の見えない不安」から少しでも気持ちが和らぎ、心が軽くなるように願いながら投稿のコーナーを作りました。日々の暮らし感じた想い不安や不満を本音で書いていただきました。

「沢山の笑顔が少しでも早く来る日待つ！！」

伝える事の間違いを避ける為に書き綴る。まもなく来るあの3月11日。深い苦しみ、深い悲しみ、沢山の夢が沢山の笑顔が少しでも早く来る日待つ！！

人間とは人と人の中で繋がっている。国があなたの為に何をしてくれるのではなく、自分が、国の為に何が出来るのか……苦しい峠でも頂点を超えたら必ず下り坂になる。

松戸市 70代 女性

「動ける人ばかりじゃないのに…」

市民は自治体の制度を平等に受ける権利があるけど、自分で動かないと、申請も情報収集も出来ない。電話しても言葉の食い違いで噛み合わない。かなりイライラしてます。

動ける人ばかりじゃないのに…」

南相馬市 40代 女性

「ふるさとには更に遠く」



あの日の、長い長い恐怖の時間が忘れられないまゝ5年、もう5年。いつも切羽詰まった行き場のない感覚におそわれている。「避難解除になれば、帰還していいです。」避難解除準備区域とは、住民も戻る準備をしておかねばならない。その心構えがあつてしかるべき

—ということなのだろうか。私は完全にその波に乗れず、おいてきぼりになってしまった。

どんじりでも走り続ければ目的地に到達できるが障害物が多過ぎる。その上、次々と問題が起きる。体力も気力も衰えるばかり。情けないけど、ふるさとには更に遠く。

南相馬市 60代 女性

手作りの作品が皆さまを待っています！

黄色いハンカチが設立して3年が経過しました。様々な活動を続けてくる中で、より多くの皆さまとの出会いを大切にしたいとの願いからこの企画が誕生しました。避難者や市民の皆さんが作った手作り作品を展示・販売をしています。

マイショップ



「“絆” “！” “絆” “！” って言うより分断でしょう？」

原発補償問題では取戻し様がない住民感情が生まれてもはや地元にも帰っても話題はその事ばかり、国がしたことは「絆！絆！」っていうのは美辞麗句で分断でしょう？

心の復興と言われているが一体何を指しているのか？人間としての尊厳とは、何？

3. 11以降この日本ではじつに多くの災害があつたが同じように困難な状況におかれた。他県の当事者の方々はこれを何と見る？一言では語れない複雑な心境におかれることだろう。

福島市 50代 男性

「さまざまなサポートの形」

東日本大震災だけにかかわらず、私たちは大きな災害ニュースを知った時に「何かお役に立てることはないか」と考えますが、具体的に出来ることは何なのかなかなか見つかりません。私もボランティア保険に入り、現地へ行く準備をし、しかし、現地での活動は実現せずもどかしく思っていました。そんなある日「黄色いハンカチ」の事を知りサロンへ訪ねてみると、避難者の方々が一市民の私を温かく迎え入れて下さり、瞬時に家庭的な繋がりを感じました。以来、時折サロンを訪ねて、みなさんと一緒におしゃべりしたり、クラフトをしたりわたしにとって楽しい時間を過ごさせて頂いています。お辛い体験を聞かせて下さるのも有難く、先輩方から大きな学びを受けている思いです。私の友人達にも呼びかけて、サロンを利用してもらったり、サロンに必要なものがあればあつめてもらったりしています。ほんの小さなサポートですが、こうしてお役に立てることが市民の私達にとっての喜びです。



松戸市 50代 女性

松戸うたごえ喫茶の皆さん！ありがとうございました。

3月11日(金)に開催した「わたしたちは忘れない大うたごえ喫茶」の金本会長が寄付金を届けに来訪されました。金本会長からは「まだまだ支援は続けなければならない」と復興支援にかける熱い思いを語っていただきました。



避難者の体験記

連載!私はその時こうだった 梅田幸子さん(福島県南相馬市)

平成23年3月11日午後2時46分。勤務先の南相馬市立大甕小学校の校庭に激しい揺れが来た。小学校最後の思い出に鬼ごっこをやりたい、と17名の子たちが四方八方に走りだした直後だった。足元をとられながらも、校庭のほぼ真ん中にいた担任教師と私の所に全員集まり背の順に並んだ。(とっさのことで男子と女子は反対の順だったが、年2回行っていた避難訓練のおかげだろう)つかまる物がなく、しゃがみ込んだ右足と左足がちぐはぐに動く!目の前の地面に亀裂が走った!息を呑んで見ているほかなかった。どれほど時間が経ったのか、幾分揺れが治まり教頭の指示で児童と教職員が校庭に駆け出して来た。その後何度も何度も地面は激しく揺れ続けた。ゴウゴウと鳴り響き続けたのは地面が悲鳴をあげていたのか、かき回された空気音なのか定かでない。寒かった。薄暗かった。

あまりの恐怖に、声も出ないのだろう、大騒ぎする子はいなかったが、低学年の泣き出す子を抱きしめ励ました。やがて家族が迎えに来て、校長は最終的に保護者の手に委ねたが、児童200名の中で5名が津波の犠牲になった。その中の一人はクラスの男児で翌年になってようやく見つかった。原発事故で立ち入り禁止とされた双葉郡まで流されていたのだった。すぐに発見された祖父と妹と3人のお骨を、しばらくの間お寺で預かっていた。確かに防災無線で「3mの津波が来ます。」と言うのを校庭で聞いた。後で6mとか10mに訂正されたというが、私の耳には届かなかった。もっと正確な情報があれば避難所になっている学校に海に近い児童を留めておいただろう。翌日土曜日は全児童の行方安否確認の為、手分けして避難所をまわり、そして電話をかけた。原発事故による離散はこの後始まった。

被災者の方に、3.11の貴重な体験を一人でも多くの皆さんに忘れないで知って頂き語り継ぐことで今後も起こりうるであろう大災害に対してどんな心構えができるのか?自分自身に問いかけして頂けたら幸いです。



4月13日(水)中央ろうきん主催の「広域避難者地域活動サポート助成制度報告会」が東京で行われました。「黄色いハンカチ利用者の会 菜の花」代表の信濃勇三さん(写真右から2番目)と「自主避難を語り合う会」代表の佐藤利雄さん(写真右端)が参加し、活動の報告を行いました。

予告

6月11日(土) 13時~16時
~埼玉の避難者支援活動を学ぶ~

**松戸・東北交流プロジェクト
活動報告会2016開催**
場所:松戸商工会議所 大会議室



2015年6月開催の活動報告会

松戸・東北交流サロン「黄色いハンカチ」5月の予定

毎週火・水・木 10時~16時オープン。利用は1回100円です
ゴールデンウィークも休まず開いています!

※5月18日(木)はスタッフご苦労さん会でお休みです。

5月3日(火) 歌の日

みんなで楽しく歌いましょう

5月10日(火) 相談デー

就職・税金・介護・原簿補償...~どんなことでも~
相談員:古宮保子

5月11日・25日(水) 13時30分~

初めての囲碁教室 ~一から教えます~

市民ボランティア講師:今田靖雄さん

5月12日(木) 13時30分~

カラー講座 シニアのおしゃれタイム

~初夏のすっきり爽やか着こなしの工夫

NPO 法人四季彩倶楽部 担当:山川やえ子さん

5月17日(火) 13時30分~

手芸の日 可愛い小物づくり
担当:戸丸栄子さん

5月24日(火) 広域避難者交流の日

~語り合おう私たちのこれから~

5月26日(木) ママカフェ

~子育て中の避難者の皆さん集まりましょう~

松戸・東北交流サロン「黄色いハンカチ」アクセスマップ
松戸駅西口から徒歩5分(八百屋さんの隣のビル2Fです。)

